

Ⅱ 令和3年度の研究開発の内容

1 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

(1) 研究開発の実績

ア 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「総合的な探究の時間」の活用	すべての「総合的な探究の時間」を研究開発に充当											
コンソーシアムにおける研究開発				○								○
研究成果報告・事業成果の作成及び検証	1回	1回	1回	1回			1回	1回	2回	1回		
専門家等アドバイザーとの協働によるカリキュラム開発			1回	1回			2回	3回	3回			

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

○ 総合的な探究の時間「未来探究」（以下「未来探究」）の取組＜1学年＞

- ・ 「未病」「防災」の2つの単元に分けてグループ学習を実施、最終週ではクラス内で各グループによる成果発表会を実施した。
- ・ 「未病」については、未病の概念等、基礎的な知識を学び、その概念を社会に広げるための効果的な方法を検討・考察し、発表した。
- ・ 「防災」については、自然災害の種類や基礎知識を学習し、その上でテーマを絞り、テーマに沿った災害について調べた。調べた結果を基に、防災の観点から自分たちで実行可能なことについてまとめ、その内容を発表した。また、12月に西丹沢ビジターセンターを訪問し、自然林と人工林の違いについて学んだ。人工林では、根の張り方が自然林と違うため、大きな土砂災害は防ぐことができないことなどを学んだ。

○ 「未来探究」の取組＜2学年＞

- ・ 生徒一人ひとりが「Myプロジェクト」という学習テーマを持ち、課題解決学習を推進した。
- ・ 小グループに分かれて授業を展開した。11月12日のグループ内発表会、グループ代表による11月26日の学年全体発表会を経て、12月発表会の学年代表を選出した。

○ 学校設定教科「あしがら」の学校設定科目「未病」「地域防災」＜2学年＞

- ・ 「未病」のフィールドワークで、me-byo valley BIOTOPIAの見学をし、未病改善に関する運動方法や食事の献立について学んだ。また、神奈川衛生学園東洋医療総合学科長の講演を聞き、体の仕組みを詳しく知ることができた。さらに、ダイヤモンドプリンセス号乗船者の対応をした足柄上病院の新型コロナウイルス感染症担当医師の講演において、当時の船内の様子や、第5波が広がった時の病院内の様子など、ニュースだけでは知りえないことを聞き、当時の緊迫感を実感した。そして、学習した内容を活用して「健康に関する商品」を考え、その商品を効果的に宣伝する広告を作成した。

- ・ 「地域防災」のフィールドワークで、神奈川県総合防災センターを見学し、大地震等の災害が起きた時にどのような行動が必要かについて学んだ。また、相日防災株式会社社員の講演では、災害後の現地の状況と、避難場所での生活などの具体的な問題点を挙げ、それに対処するための防災備品についての説明を受けた。また、授業では防災について学び、そこで得た知識を使って、誰にでも分かりやすい防災ハンドブックを作成した。
 - 「未来探究」の取組<3学年>
 - ・ 2学年に行っていた「マイプロジェクト」の内容をブラッシュアップさせた。(詳細はP38)
 - ・ 6月、山北町議会議員に向けて、2グループが発表を行った。(山北町生涯学習センター)
 - ・ 10月に学年発表会を行い、学年代表を選出した。
 - 研究成果発表会(12月17日) 校内 <全学年>
 - ・ 24会場に分かれ、発表会を行った。県教育委員会、町教育委員会、大学等から24名のコメントーターを招き、会場ごとに指導・助言を受けた。
 - 研究成果発表会(12月18日) 松田町生涯学習センター <全学年>
 - ・ 午前と午後に分けて、生徒代表6グループによる発表を、それぞれ2回行い、午前・午後合わせて、120名以上の外部の方が来場した。
 - ・ 午前は、本校2学年全生徒と近隣の中学校3年生及びその保護者に向けてステージ発表を行い、1階の展示ホールでは、これまでの3年間の取組について、展示による発表を行った。
 - ・ 午後は、第1部と第2部に分け、第1部は午前と同様に、生徒代表による発表を行った。第2部は、3年間の取組について教員が発表し、その後、「山北町と探究学習」をテーマに有識者によるパネルディスカッションを行い、発表会終了後に情報交換会を行った。県内の教職員だけでなく、他県の教職員や大学教授、コンソーシアム関係者等が集まり、1時間程度の大変有意義な情報交換となった。
 - 山北町への「政策提言」(1月14日) <代表生徒>
 - ・ 2学年1グループ、3学年2グループ、計3グループによる発表を行った。
 - ・ 町長・副町長・教育長をはじめ、山北町議会議員、山北町職員、学校関係者、希望する町民等、合わせて100名近くが来場した。
- ② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程における位置付けについて
- 1学年では、「未来探究」の充実を図り、2単位を設置した。
 - ・ 2学年で学習する「未病」「地域防災」についての導入的な学習の充実を図るなど、適切な科目選択に資する活動を取り入れた。
 - 2学年では、学校設定教科「あしがら」に学校設定科目「未病」、「地域防災」(各2単位)と、「未来探究」(1単位)を設置した。
 - ・ 担当教員が創意工夫を凝らし、実践的な活動を進めた。

- 12月に成果発表会を2日間行った。さらに1月に山北町への「政策提言」を行った。
- ③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について
- 教科等横断的な授業計画を学校全体の取組として体系化し、各教科が情報を共有した。
 - 様々な教科で課題解決したことを活用できる教科等横断的な探究活動を実施していくために、科目の異なる複数の授業において思考力を高める授業展開を目指した。
 - 探究学習で得た知見を各教科の学習に生かすことができるよう「未来の山北高校を探究しよう」をテーマにカタパルト株式会社の協力により職員研修を実施した。（7月21日）。
- ④ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメント推進体制
- 授業改善のテーマを「生徒の思考力を高める授業展開」として校内研修を実施したところ、事後に行った授業において、当該科目に苦手意識を持つ生徒も意欲的に学習に取り組む姿が見られた。
- ⑤ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）
- 校内組織再編を実施し、資源を生かしながら、協働を通して、目的達成のために自らの意志を持って継続的に事業運営を行う学校組織を構築した。
 - 定期的な事業研究会議を実施することで、コンセプトを共有し、各セクションの進捗状況の確認を行うとともに、学校運営協議会を有効に活用し、そこで出された意見を取組に反映させた。政策提言に関するご意見をいただき、山北町との報告会につなげた。
- ⑥ カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて
- <カリキュラム開発等専門家>
- 授業参観を行ったうえで、単元による学習活動の展開への指導・助言をいただいた。
 - 学年会議、コンソーシアム連絡会議への出席や各企画参観後の進捗状況等に関する協議に参加し、本事業全体の監修と教育課程全般について指導・助言をいただいた。
- <地域協働学習実施支援員>
- 外部人材、団体（学校関係、地域住民関係、企業関係）の活用に向けて連絡・調整していただいた。
 - 授業に参加し、学習に関わる「学びの場」を提供するための連絡・調整を行った。
 - 講演会の講師依頼や、プレゼンテーション資料に関する助言等、昨年度よりも幅広く関わっていただいた。

- ⑦ 校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
- 連携推進グループが研究開発を立案、学習支援グループが計画・実施に向けて調整・管理、キャリア教育グループが探究活動を生かした進路指導に連結させる指導体制が構築できた。
 - 学校を核とした地域協働活動に、山北町とともに着手した。その充実のために、今年度は新たに町から紹介された地域協働学習実施支援員3名を加えることができ、外部の人材を活用した取組を推進し、改善につなげることができた。
- ⑧ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
- 山北町役場や山北町議会へ本校の取組を報告し、生徒の考えた町の課題に対する施策を、発表をとおして町議会議員へ提言した。
- ⑨ 運営指導委員会等、取組に対する指導・助言等に関する専門家からの支援について
- 運営指導委員として、山北町教育長石田浩二氏、早稲田大学教職大学院客員教授羽入田眞一氏、岡山大学学長特別補佐小村俊平氏に委嘱した。
 - 第1回「令和2年度の活動報告及び令和3年度の活動計画について」（7月21日）
 - ・ 新型コロナウイルス感染症感染拡大対策として、神奈川県ガイドラインを遵守しながら、地域とともに、生徒の主体的な関わりを推進することについて協議し、広報活動と外部団体の設立に注力することを決定した。
 - 第2回「令和3年度の活動報告及び令和4年度の活動計画」について（2月3日）
 - ・ 令和3年度研究開発完了報告書についての指導・助言をいただいた。文部科学省の指定が終了した後の活動方針について、山北町と県教育委員会が協定を継続し、コンソーシアムを広く活用していくことを確認した。
- ⑩ 類型毎の趣旨に応じた取組について
- コンソーシアム団体の協力により、山北町フィールドワークを計画した。新型コロナウイルス感染症感染防止対策のため実施を見送ったが、12月22日の自然体験は、地域協働学習実施支援員の協力のもと実施することができた。
 - 地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組として、地域における地域ならではの新しい価値の創造に向け、地域をよく知りコミュニティを支える人材育成を行った。
 - 本校の特色ともいえる「スポーツの山北」の良さを継承した形で「未病」や「地域防災」の学びを通じ、高齢者比率4割の山北町の課題解決に取り組んだ。
- ⑪ 成果の普及方法・実績について

- 12月17日に校内において、12月18日に松田町生涯学習センターにおいて、成果発表会を実施した。17日には、関係団体等から24名のコメンテーターを招き、会場ごとに指導・助言をいただいた。18日には、関係各所から来賓を招き、生徒代表による発表を聞いていただいた。
- 1月14日に山北町生涯学習センターにおいて、生徒代表3グループによる山北町への政策提言として「地域との協働による報告会」を行った。
- 3月16日、県教育委員会主催の県西地区探究学習に係る成果発表会において、地区内の高校を対象に、本研究の成果を代表生徒が発表した。